

# わがまちみらいマネジメント講座

## 「地域活動×オンライン はじめの一步」 実施報告書

- 1 日 時 令和3年7月11日（日）14時00分～16時00分
- 2 実施方法 ハイブリット型（会場およびオンライン）
- 3 開催目的 地域活動の担い手等を対象に、地域活動における運営能力の向上や地域活性化に効果的な手法の取得を目指す。
- 4 テーマ テレビ会議を始めとしたオンラインツールを使った会議や活動について、事例を交えながら、初心者でも分かりやすく、地域活動で実践できるような手法やヒントを学ぶ講座を開催します
- 5 参加者 会場12名 オンライン37名 計49名
- 6 講師 秋山 翔太郎 さん（佐賀県CSO推進機構 理事）

1986年、福岡市生まれ。大学在学中のバイク事故による入院の末、人との巡り合わせに合縁奇縁を感じる。入院中、佐賀環境フォーラムを受講し、放置自転車の再活用や利用促進を目指す学生発の環境活動団体を創設した。年間130件ほどの相談を受け、研修や講座の企画運営、オンライン活用支援を行っている。



## 7 実施内容

### ○オンラインツールを知ろう（概要紹介）

秋山先生から、コロナ禍で地域活動を続けるため、どのようなオンラインツールがあるのか、地域活動においてオンラインツールが効果的に活用されている事例などを学びました。

#### 1. オンライン活用の事例

##### ①情報発信

・ ホームページ・(ブログ)

例) 佐賀市「つながるさがし」地域住民みんなで作る電子掲示板

・ SNS 毎の特徴や使われ方 (LINE、Facebook、Instagram 等)

例) 赤松まちづくり協議会・蓮池まちづくり協議会 Facebook

##### ②内部会議

・ オンライン会議ツール「Zoom」の紹介（後半の講義で使い方を説明）

##### ③対外活動

・ Zoom を利用したセミナーや講演（参加者と講師が別会場でつながる例）

例) 佐賀市地域づくり交流会

シトラスリボンプロジェクト

オンライン折り紙教室

よりみちステーション

〇〇な障がい者の会

#### 2. オンライン会議のお役立ちツール

・ Google ドキュメント、Google フォーム、Google jamboard、調整さん 等

### ○質疑応答

前半の講義の内容について、会場、オンラインそれぞれの参加者から質問が出され、先生に回答していただきました。

Q. 協議会でオンライン会議をする際、スマホなどを持たない方がいる場合、どのような器具等がどれだけ必要ですか？

A. 会場につき、スマホやタブレットが最低1つあればよいです。用意する器具は、なるべく少なく設備は簡素にしたほうが良いでしょう。例えば、公民館等にある音響機器を利用するなどです。詳しくは後半の講義で説明します。

Q. Facebook 上で PDF や Word を載せる方法はありますか？

A. グループやメッセージで共有はできますが、投稿することができません。投稿するなら、画像に変換する必要があります。

## ○オンラインツールを使おう（活用編）

実際にオンラインツールを使うために必要な準備や、オンライン会議をする方法、オンラインと会場を融合させた「ハイブリッド開催」の手法について学びました。

### 1. オンライン会議を始めるために必要な準備

- ①パソコン・スマホ・タブレット
- ②ヘッドセット・イヤホンマイク
- ③Web カメラ
- ④安定しているインターネット回線
- ⑤リラックスできる環境

### 2. Zoom の使い方

Zoom の使い方を、会議を主催する側（ホスト）と会議に参加する側（ゲスト）のそれぞれの場合に分けて学びました。

- ①オンライン会議を主催する場合（ホスト）
  - ・アカウントの取得が必要
  - ・ミーティングを設定し、ミーティング情報を参加申込者（ゲスト）に送る。
  - ・「共同ホスト」の機能で役割分担をすることも可能。
- ②オンライン会議に参加する場合（ゲスト）
  - ・アカウントへのサインインは基本的に不要（アプリさえダウンロードすればよい）
  - ・ミーティング情報を主催者（ホスト）から受け取る。
- ③マイクやカメラの設定確認
  - ・マイクやカメラの設定方法を確認し、バーチャル背景などの機能も紹介。

### 3. ハイブリッド開催について

状況に応じて、リアルとオンラインを選択できるので、参加者の参加のハードルを下げるができる開催方法として、「ハイブリッド開催」が紹介されました。

#### ①開催方法の比較（メリット・デメリット）

- ・リアル開催：カードゲームや模造紙、付箋等を活用でき、学ぶ、知るだけでない交流や感動がある一方、参加者に足を運んでもらう必要があるため、感染症、風雪水害等のリスクで開催が困難になる。
- ・オンライン開催：端末とネット環境さえあればどこからでも参加でき、オ

ンラインツールを活用できる一方で、参加者に端末とネット環境、一定以上の IT スキルが求められ、参加者の様子が分かりにくい。

- ・ハイブリッド開催：参加者が参加方法を選択、変更できる一方、オンラインのみでの開催に比べて必要となる会場設備、負担が増し、会場での盛り上がりによりオンライン参加者が置いてきぼりになりがちとなるため、会場とオンラインどちらにも配慮して運営する必要がある。

#### ②ハイブリッド開催の様々な開催方式

- ・セミナー（講師がオンライン or リアル会場）
- ・交流会（会場間サテライト、円卓会議・座談会）

#### ③運営時の役割分担

リアル開催での役割（会場受付・司会進行・マイク運び・記録係）に加えて、オンライン用の役割（ルームの入退室管理、チャット対応、スポットライト設定、会場撮影用カメラ）が必要となる。

#### ④ハイブリッド開催でありがちなハウリングを回避するために

- ・会場のマイクとスピーカーを1台に集約する
- ・周囲のPCやスマホはマイクとスピーカーをオフにする  
（同一会場に複数のスマホ、PCがある場合は特に注意）

会議中に最もストレスがかかるのは、映像が見えにくいことよりも、音声が聞こえないこと。

### 4. 導入支援の例を紹介

秋山先生が実際にオンラインの導入支援をされた事例を紹介いただきながら、必要な機材等を確認しました。

- ・鳥栖市 とす市民活動ネットワーク（講師の先生がオンラインの場合）
- ・佐賀市 シトラスリボンプロジェクト（公民館のカラオケ機材を用いた事例）

### 5. オンラインや Zoom について身近な相談先

長崎市市民活動センター「ランタナ」について紹介されました。

年中無休で相談可能。団体登録をしていれば、（自治会や地域コミュニティ連絡協議会など）Zoom のアカウントを無料で貸し出してもらえます。

## ○質疑応答

講座の最後に、会場とオンラインのそれぞれから質問が出され、先生に回答していただきました。

Q. 回覧板を電子化することによって、回覧スピードは速くなりましたか？

A. 「つながるさがし」については、完全に電子化したわけではない。回覧する情報をホームページ上で閲覧できるようにしたもので、情報発信を補完するようなものだが、自治会に加入していない人やマンション住まいの人など回覧板が回らない人にも情報を知ってもらえるなどの利点がある。

Q. 高齢者が拒否反応を起こさずに、このシステムに慣れて貰う方法は？

A. 今日会場に参加いただいて、少し体験してもらったように、体験する機会を設けるとよい。最初は抵抗があっても実際にコミュニケーションが取れて捗ると分かると抵抗がなくなり、どんどん利用してくれるようになる。

Q. Skype や Zoom を利用した会議を主催する場合、回線やスペックの問題をどう解消すればよいか？

A. その日だけのポケット WI - FI を借りたり（数百円～数千円）、スマートフォンやタブレットを利用したりすることもできる。施設のインフラの問題については、地域住民のニーズによって優先順位が変わることも考えられるので、いずれ改善していくと考えられる。

## 8 アンケート結果

別紙「アンケート結果」参照

(会場の様子)



(オンライン参加の様子)

